

はじめに

奇跡さえ信じることをやめようとしたコロナ禍（COVID-19）。

多くの人にとって、つらく、また孤独で、我慢の多い日々だったのではないかと思います。皆、それぞれ迷い、悩みながら、一生懸命生きていて、いろいろ抱えて生きているこの世界。

どんな人のどんな選択も、どんな人生も、きつと間違いないのだろうと、ここ数年間で強く感じるようになりました。長いコロナ禍も、この本が世に出るころには、こんなときもあつたな、と懐かしく感じる事ができて、少しでも明るい世の中になっているといいな、と思います。

保育士、幼稚園教諭。先生と呼ばれる仕事を11年、並行して、キックボクシングのプロ選手を6年半やりました。二刀流のキックボクサー、戦う保育士としていろいろな経験をしてきました。嬉しいこと、楽しいこと、苦しいこと、つらいこと。どんな感情も今では大切な思い出です。たくさんの方に支えられ、そして応援してもらってこれまで頑張ってくることができました。きつとなかなかこんな人間はいないだろうな、と思います。これだけのことを続けてこられたのは、確かに中途半端ではできないことでもありますし、自分でも、よくやっていたな、と感じます。

この文章だけ読むと、格闘技のイメージから、怖いとか、いろいろな意味で強い人間なんだろうな、と考える方も多いと思います。しかし、本当は真逆で、気持ちが弱くて仕方がない人間です。不器用で、何かできるようになるのも人より遅い。そんな自分が嫌いでした。でもきつと、自分に満足なんてしなかったから、だからこそ頑張つてこら

れたのかもしれない、とも思います。

壮絶な、強烈な人生でもあったけれど、振り返るとすごく幸せで、誰にもできない経験をたくさんしました。まずは、私の人生に関わってくれている皆様、いつもありがとうございます。

幼少期から取り柄もなく、地味な子どもでした。勉強も運動も、何か秀でたものもなく、なんとなく生きてきたのかもしれない。大人になってからも基本的な性格は変わらず、メンタルが弱い、そんな人間でした。どんなに頑張っても、きっとそれは「つもり」だったんだろうな、とか、自分はダメだな、と思うことがたくさんありました。それは、どんなことがあっても、何年経っても変わることはありませんでした。

変わりたくて、いろいろな本やSNSで見かける名言集を見たり、自己肯定感を高める方法を見たりしましたが、そのくらいでは重度な私にはまったく響くことはありませんでした。

変われなかった。変わろうとしていないのかな、とまた自分を責めたこともありました。

普通の人ならきつと自然にできる、自分の思いや気持ちを人に伝える、ということ。そんなこともなかなかできないときがあります。どこか不思議で、謎多き人間と思われているかもしれないですね。ささいなことも、どう言えばいいのか、どう伝えたらいいのか、今の言葉はいらなかったかな、などいろいろ考えてしまう癖もあります。

でも書くことならできる、自分だからこそ、伝えることができるかもしれない、と感じました。

私と同じように、自分に自信が持てず、未来が不安な方ってたくさんいるのではないかと思います。誰かに背中を

押してもらえたら、もう少し頑張れる方もいるのかな。

本を手にとってもらった誰かに、少しでもパワーをあげることができたらいいな、という思いと、そして自分のために。いろいろなことに対して、勇気、自信を持って生き、一歩踏み出すことができる人間になりたいです。

これまで応援してくれた方にも、恩返しをしながら一生懸命生きたい、というそんな思いと、自分の生きてきた道が誰かの力になるなら、そして自分も少しでも変われるなら。そう思い、今回書くことを決めました。